

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2007～2010

課題番号：19720183

研究課題名（和文） 「周代宗法制」の成立に関する研究

研究課題名（英文）

A Study of the Formation of the Institution of “Lineage Law”

研究代表者

小寺 敦 (KOTERA ATSUSHI)

研究者番号：30431828

研究分野：

科研費の分科・細目：

キーワード：

1. 研究計画の概要

本研究は、周代宗法制の起源と展開を探るための基盤構築作業を行うことを目的とする。後世、周代宗法制と称されるような中国古代における体系的な家族観が戦国期に成立したとする、研究代表者のこれまでの見通しを、先秦家族史における各事象を検討することを通して、個別具体的に立証する。また周代宗法制研究の現を批判的に確認し、出土資料と伝世文献の比較検討を中心に、周代宗法制と称されるものの実態を検討する。そして研究の円滑化を図るため、先秦家族研究に関係する出土資料を収集し、4年の期間内にデータベース化を行う。

2. 研究の進捗状況

コンピュータ・金文を文字データとして扱うことの可能なTron (OS)・スキャナ・デジタルカメラ等を購入し、上海博楚簡研究会に参加させていただく機会も利用しながら、研究活動・資料収集を行った。データベース構築の一環として、勤務先の東京大学東洋文化研究所が所蔵する、膨大な未整理の金文資料の一部を整理する作業を行った。

現地調査としては、中国の研究者の協力を得て、2007年度の8月に中国の湖南省で最新の出土資料である里耶秦簡を拝見した。同年3月に河北省で戦国時代の陵墓群や都城遺跡を調査した。2008年度の9月に上海・湖南省へ赴き、上海博物館で上海博楚簡を、湖南省長沙市の湖南大学で最新の出土資料である岳麓書院秦簡などを拝見した。2009年度の9月に北京で清華大学で新発見の清華大学所蔵戦国竹簡を見学し、座談会を行った。引き続き上海・江蘇省へ赴き、現

地の遺跡・博物館を見学した。3月には北京・湖北省・広東省へ赴き、湖北省荆州市の熊家冢楚墓で発掘中の車馬坑を見学した。このように中国各地で資料調査・収集を行った。日本国内でも、京都の泉屋博古館や神戸の白鶴美術館などを訪れ、資料調査・収集を行った。

研究成果としては、白川静と松本雅明の『詩経』研究を比較対照した論考を発表し、ヨーロッパの学者による、漢代の春秋学に関する論文を翻訳した。先秦時代の君位継承原理に関する文章2篇も執筆し、うち1本は紀要で発表し、もう1本は学会誌での掲載が決定した。初年度より課題となっている「周代宗法制」に関する研究史の整理作業については、本科研の成果に立脚して行うべきものと判断したため、最終年度の課題として残した。また、本研究課題を基礎づける研究としての、出土文献研究の一環としての訳注およびその史料的性格に関する研究も発表した。

3. 現在までの達成度

②

データベース構築のための資料収集・現地調査・研究成果の公表について、研究成果の公表は、当初の予定から執筆順序の変更を一部行ったが、その他はおおむね支障なく当初の計画に沿って進めることができた。特に調査を行った各地で研究協力者に恵まれたことは、研究計画を順調に遂行する上で重要な意味を持ったと考えられる。

4. 今後の研究の推進方策

当初の予定とは異なって後回しになった「周代宗法制」に関する研究史の整理作業は、

本科研による研究の掉尾を飾るものとして行う。前年度まで続けてきた先秦時代の君位継承原理に関する研究や出土文献研究も、「周代宗法制」研究を支えるものとして続行する。資料収集・現地調査についてはこれまで通り、現地の研究者と協力しながら進めていく。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計5件)

- ① 小寺敦、白川・松本論争—論戦よりみた白川説の特質—、大航海、63巻、146-152頁、2007年、査読無
- ② ヨアヒム・ゲンツ(著)、小寺敦(訳)、『公羊伝』における歴史的眞実に関する問題、日本秦漢史学会会報、8巻、34-73頁、2007年、査読有
- ③ 小寺敦、先秦秦漢の傳世文獻にみえる「讓」について—先秦儒家系文獻を軸として—、東京大學東洋文化研究所紀要、156巻、1-180頁、2009年、査読無
- ④ 小寺敦、上海博楚簡『鄭子家喪』譯注—附・史料的人格に関する小考—、東京大學東洋文化研究所紀要、157巻、1-35頁、2010年、査読無
- ⑤ 小寺敦、先秦時代「讓」考—先秦時代君位継承理念の形成過程—、歴史学研究、掲載時期未定、査読有